



県病医療ニュース

病院機能評価3rdG:Ver2.0認定病院

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係



※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら

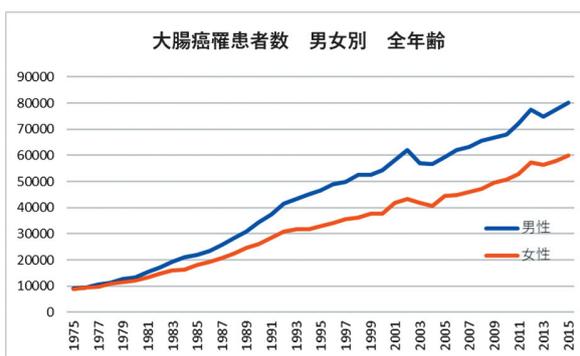
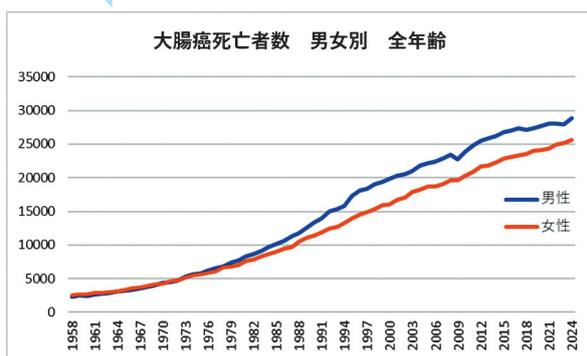
消化管内科

大腸がんを見つけるための 検査(大腸がん検診)を受けましょう!

大腸がんは進行すると血便などの症状があらわれますが、早期はほとんど自覚症状がありません。

- 大腸がん検診でおこなわれる「**便潜血検査**」は、便に付着した微量の血液を検出することによって、がんや大きなポリープを見つける検査です。
- 便潜血検査が陽性となった人の**3~5%**で大腸がんが発見されます。陽性になった場合は、がんがないかどうかを確認するために大腸内視鏡検査を受けるようにしましょう。

大腸がんが見つかった人(罹患者)数、死亡者数ともに増加しています



2024年の国立がん研究センター報告では、大腸がんによる死亡者数は、男性では第2位で28,826人、女性では第1位で25,590人でした。大分県では、男性265人、女性239人が2024年に大腸がんでお亡くなりになっています。

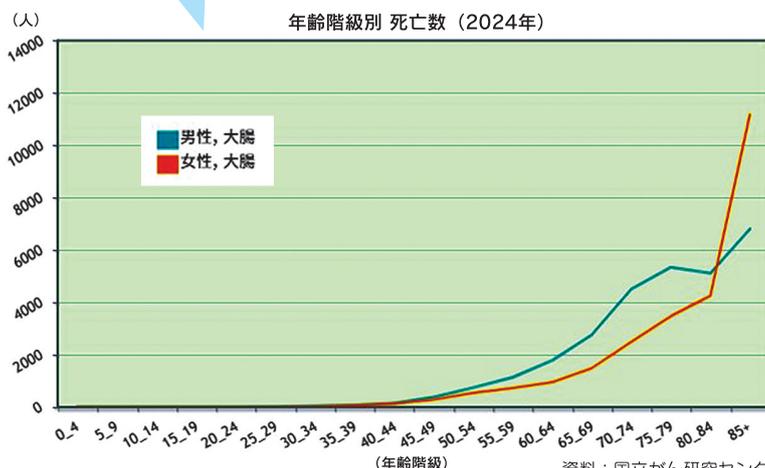
日本では、40歳以上を対象とした大腸がん検診として、便潜血検査が自治体の対策型検診でおこなわれています。便潜血検査は採取した便に血液が混じっていないかどうかを分析するもので、採取する時間や食事の制限もなくとても簡単な検査です。

国立がん研究センターによれば、大腸がんによる死亡率を70%低下させるという研究結果もあり、科学的根拠のある検診です。

「要精密検査」の通知がきた時は、すみやかに大腸内視鏡検査を受けることが大切です。

(消化管内科 部長 沖本 忠義)

大腸がんで亡くなる方は40代から増加しています



資料：国立がん研究センター



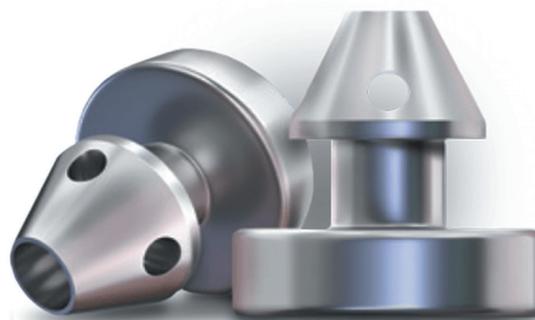
新しい 緑内障の低侵襲治療について

2026年 3月 第212号

近年、**低侵襲緑内障手術**（MIGS : Micro Invasive Glaucoma Surgery）といわれる新たな治療法が開発され、これまでの緑内障治療に変革をもたらしました。

大分県立病院眼科では2025年度から、このMIGSの一つである「iStent inject® W」を併用した白内障手術を開始しています。「iStent inject® W」は長さ0.3mmという微小なステントで、世界で最も小さい医療機器です。これを**繊維柱帯**にインプラントすることで、**房水排出**を促進し、術後の眼圧下降が期待できます。

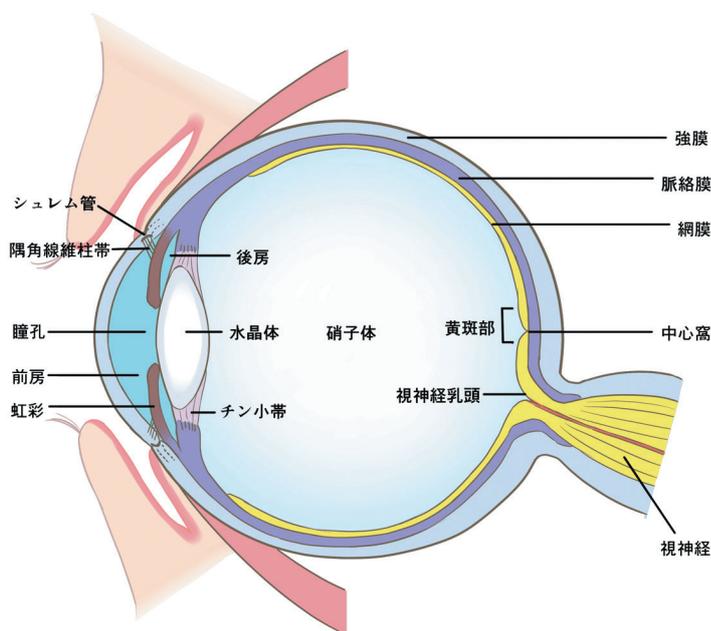
適応は白内障を合併した軽度から中等度の開放隅角緑内障です。従来の緑内障手術と比べて手術侵襲が少なく、手術に要する時間が短いことが大きなメリットです。緑内障手術の術後合併症の一つに前房出血がありますが、その発生リスクが高いとされる抗凝固薬を使用中の患者さんにも比較的**安全に手術を受けていただくことが可能です。**



iStent inject® W

緑内障は日本における失明原因の第一となっており、今後も多くの患者さんの長期的かつ適切な眼科的フォローが必要な疾患です。「iStent inject® W」はその治療選択肢を広げる新たな医療機器です。今後も当科では適切な症例に「iStent inject® W」の施行を検討していく計画です。

（眼科 医師 八塚 洋之）



看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら